

モンテディオ山形J1昇格のニュースは、山形県民に大きな喜びと希望をもたらしてくれた。Jリーグ加盟から10年、資金力が少ない、練習環境が不十分などの多くの課題を、モンテディオ山形はどのように克服し、「J1への切符」をつかんだのだろうか。その勝利のカギは「創意と工夫」にあった。

苦節10年、悲願のJ1昇格

2008年11月30日、モンテディオ山形は愛媛FCとの対戦で3対2の劇的な逆転勝ちを納め「悲願のJ1昇格」を決めた。モンテディオ山形にとって歴史的な1ページを書き加えた瞬間である。

遠く四国・松山の地に、山形や首都圏から400人余りのサポーターがバスや飛行機を乗り継いで応援に駆けつけてくれた。

サポーターたちはゲーム終了後一様に涙を流し、監督や選手に「ありがとう！ありがとう！」と叫んでいた。その光景にスタッフ一同は胸が熱くなった。モンテディオ山形はNEC山形が土台となり1984年に設立され、J2に参入してから10年、思えば長い道のりだった。

設立当初、チームは株式会社での運営を構想したが、必要な資本金が調達できず、苦肉の策として、唯一の社団法人としてスタートした。大企業が親会社となり、豊富な資金でクラブ運営する他のクラブ



待望のJ1昇格、喜びの瞬間

モンテディオ山 躍進のカギは「創

との闘い、また冬季の練習場の確保の難しさなど多くの苦難を乗り越えてきた。

また、過去に2001年そして2004年に2度、J1への昇格争いをするも、「あと一步」で昇格をつかみ取る事が出来ない経験もあった。その結果、活躍した選手が資金豊富な他のクラブに引き抜かれ、また1からのチーム編成を余儀なくされる、その繰り返しで、資金の少ないクラブの宿命である。

しかし、そのような環境にもめげないモンテディオ山形の強みは苦境を「創意と工夫」で頑張ってきたことにある。

モンテディオ強化策の舞台裏

チーム運営の厳しい条件は2008年シーズンのスタート時も同様であったが、これまでと違ったいくつかの要因があった。

モンテ強化策として、まず始めに取りかかったことは強化担当を迎え入れたことである。決して前任者が悪い訳ではない。新任者ゆえに、過去にこだわらずにフレッシュな目でコーチングスタッフの選定に臨むことが出来た。その結果、直前までアビスパ福岡で強化責任者であった小林監督に巡り会えた。

小林監督は、かつて大分トリニータがJ2であった時代にJ1昇格を実現し、さらにセレッソ大阪で優勝争いを経験した監督として実績があった。小林監督のこれまでのキャリアは、よく考えれば、J2時代に



社団法人山形県スポーツ振興21世紀協会 理事長

海保 宣生 (かいほ・のぶお)

1941年、東京都出身。
立教大学経済学部卒業後、住友金属工業株式会社入社。
1996年、鹿島アントラーズFC常務取締役、2001年バスケットボール女子日本リーグ機構専務理事、顧問などを歴任し、2006年より現職。

形、いざJ1へ 意と工夫」にあり

対戦相手であったモンテディオ山形の「弱点」も知り尽くしている人材であり、さらに豊富な人脈と情報を持ち合わせてもいた。

2008年シーズンの勝因は

早速、コーチングスタッフの編成・弱点を補強しつつ強化を図るための選手の編成に取り掛かり、速やかに体制を整える事が出来た。次には、リーグ戦を迎える前のチーム強化を図る上で重要なポイントとなるキャンプ地に、長崎県の「雲仙」を選んだ事である。

春の嵐が日本列島を襲い、各地で降雪があり練習を中断したチームが多かったが、われわれは全くその影響を受けなかった。雲仙は小林監督の故郷でもあり、多くの地元の方々から歓迎され、優遇される中で充実したキャンプを過ごすことが出来、リーグ戦に臨む事が出来た。

準備を万全に整え、いよいよ3月に開幕を迎えた。ところが主力選手のケガや、ホーム開幕戦でJ2に新規参入した岐阜からの思わぬ敗戦など紆余曲折があった。しかし、バックアップ選手たちの活躍により凌ぐことが出来た。

その後、7月には調子を落として3連敗し、9月は2分2敗と勝ち星に恵まれず、極めて苦しい時もあったが、この時は昇格争いをしている他のチームも勝ち星をつぶし合う、という幸運にめぐり合えた。

J1昇格は「創意と工夫」「偶然」「幸運」といういくつかの要因の集積であった。

待望の2009年のJ1シーズンを展望すると、ますます資金力の差という環境の中で闘うことになり、その苦労は今シーズン以上である。出来るだけ収入を増やす努力を重ねながら、「創意と工夫」で選手を編成し、「果敢に!」「ひたむきに!」闘うチームを作り上げ、県民の期待に応えたいと思っている。

モンテディオで山形を発信

J1での新しいシーズンは、メディアやアウェイサポーターの来場が増える。山形のチームとして、県外から訪れる大勢のサポーターに「山形の良さを味わってもらおう」努力もしたいと考えている。例えば「温泉」を味わってもらうために、温泉協同組合とタイアップして「サポーター特別割引」を企画したり、スタジアムに「山形の特産品販売店」を設置したいと考えている。つまり、モンテディオを介して山形を発信できるように仕掛けたい。

何よりも、日本の最高レベルのJ1リーグを、多くの山形県民と県外からの来場者とで大いに楽しんでもらいたい。そのために県内・県外を問わず「創意と工夫」で観戦を呼び掛け、ひいては県内スポーツ文化の底上げにつながると、確信している。

最後に、決してサッカーが盛んな土地柄とも言えない山形に於いて、プロチームを生み、育てようと努力された諸先達の「熱い思い!」と「エネルギー」があったればこそ、今日のJ1昇格が達成出来た訳で、この機会に諸先達に深い敬意を表したい。